

1 次の1～8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 イサ^マしい姿で現れる。
- 2 ザユウの銘は「誠実・勤勉・友愛^{めい}」だ。
- 3 予選試合はガ^ンチュウにない。
- 4 急なホウ^モンを受ける。
- 5 提案にイギ^ギを唱える。
- 6 やる気が空^ク回りする。
- 7 植物の発芽^{ハツ}を観察する。
- 8 直^チちに出発する。

2 次の1〜4の俳句や短歌の□にあてはまることばとしてふさわしいものをそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。

1 夏の□ 日かげ日なたと飛びにけり
〈高浜 虚子〉

ア 蝶ちよう イ 雲 ウ 飛行機 エ 花火 オ 馬

2 □ 竹に音あり夜の雪
〈正岡 子規〉

ア ちやみちやめと イ ぢぢぢわと ウ さらさらと エ ぽとぽと オ ふわふわと

3 ねむる □ ひとかたまりの毛となりて目耳鼻口脚尾を蔵ふ
〈田宮 朋子〉

ア 毛糸 イ 鬼おに ウ 牛 エ 毛虫 オ 猫ねこ

4 □ には愛あふれたりその愛は消印の日のそのときの愛
〈俵 万智〉

ア 黒板 イ 手帳 ウ ノート エ 手紙 オ 落書き

次の詩を読み、下の問いに答えなさい。

我慢 がまん

林 はやし
佐知子 さちこ

平気な顔だが
吹き荒れる

心のうちでは 強風が

にこにこ装い よそお

活火山

心のうちでは 爆音と ばくおん

たまった叫びは さけ

顔の下

心にもぐって マグマに

もう いい

我慢するのは

①
のは

1 ① にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア ひとにうそをつかせる
イ 我慢で自分を抑えこむ おさ
ウ マグマで涙をかわかす
エ 我慢でひとを傷つける
オ 耳をふさぎうずくまる

2 ——— 線② 「涙でマグマを／洗い流そう」とありますが、これはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 心のうちを隠してにこにこするのはやめよう、と泣いてお願いすること
イ これまで表に出さなかった自分の気持ちを完全に無くしてしまふこと
ウ ずっとためこんできた苛立ちや悲しみ いらだにあまりとらわれないようにすること
エ 怒りや苦しみといった気持ちをすべて表し、すっきりさせること
オ 耐えきれずに吐き出してしまったことばを、なかったことにすること

3 ——— 線③ 「そのとき」とありますが、これはどのようなときですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 素直になったとき すなお
イ わがままを言ったとき
ウ 負けを認めたとき
エ 平気な顔をしたとき
オ あきらめたとき

ほんとの気持ちを

吐き出そう

ことばにして まっすぐ

② 涙でマグマを

洗い流そう

涙の 雨で

③ そのとき光が 射してくる

『この空につながる』銀の鈴社 による

4 この詩から読みとれる内容としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で書きなさい。

ア 人間には、調子のよいときもあれば悪いときもあるので、苦しい時期を乗りこえれば必ず明るい未来がやってくる。

イ 人間は、たとえ自分の気持ちを押し隠していても、周りの人たちから見ればすぐにわかってしまうものなので、どんなことでも正直に話したほうがいい。

ウ 人あたりよくにこにこ笑顔を向ける人間は本心がわからないので、怒りや悲しみをまっすぐにぶつけてくる人間のほうが魅力がある。

エ 人間は時と場合によって様々な感情を持つものなので、ことばにしない本当の気持ちを他人が察するのは難しい。

オ 人間は表情や態度で気持ちを隠すことはできるが、そのまましていると心が苦しくなってしまうので、感情をためこまなくていい。

5 この詩で使われていないものを次の中から二つ選び、記号で書きなさい。

ア 倒置

イ 擬態語

ウ 直喩 (明喩)

エ 隠喩 (暗喩)

オ 体言止め

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「ここまでであらずし」…小学三年生の男の子、羽猫山吹は、変わり者の祖父、家をあけることが多い両親、姉の紅と一緒に暮らしている。授業参観のプリントを未練がましく持っていた山吹を見かねて、紅はプリントを丸めてしまった。

顔、それが、参観日の図工のテーマだった。顔、とサカシタ先生が大きく黒板に書いた。友だち、家族、とサカシタ先生は言いながら、顔という字の周りにどんどん書き足していく。

お年寄りの顔と、赤ちゃんの顔、女の人の顔と男の人の顔、みんなそれぞれ違いますね、と言いながら、①生徒たちの顔を見まわすようにする。後ろに保護者が控えているためか、静かだった。いつもならば「きれいな顔とぶさいくな顔」などとぶさけ出して笑い出しそうな生徒も、今日はかしまっている。

「今日は、来ていただいた家族の人の顔を描きましょう」

お母さんたち、どうぞ、とサカシタ先生に呼ばれて、保護者たちは各自、自分の子ども席の前に散らばる。化粧品けしょうひんの匂いにおがふんと鼻をついた。②ちらりと鍊司れんじのほうを見る。仕事を休めなかったというお母さんのかわりにおばあちゃんが来ているのだが、鍊司はふてくされたように下唇したくちびるを突き出している。

山吹の前に、サカシタ先生が立った。

「羽猫くんは、先生の顔を描いてくれるかな？」

三十一人のクラスの中で、保護者が来ていないのは山吹だけだった。はい、と答えて俯うつむく。

「美人に描いてね？」

サカシタ先生は笑って、前髪まえがみを直す素振りそぶりをする。それはむしろかしい注文注文ですね、と答えられる程度には、余裕よゆうがあった。

「えー。ひどい」

サカシタ先生が笑うと目尻めじりにぎゅっと皺しわが寄る。輪郭りんかくはまるい。じつと観察して、それから画用紙にすつと線を引いた。線の端はしが滲にじんだと思つたら、ぽたぽたと水滴すいすいが落ちた。画用紙を濡ぬらしてしまう。

誰も来ないことはわかっていた。泣くほどのことではないと思っていた。それなのに自分の目から零こぼれ出たものに山吹はうるたえている。急いでごしごしと袖そでで目元をぬぐったが、③どうしても顔を上げることができない。

気を逸そらすために、犬のことを考えた。ジョンのような犬。かわいくってあったかい犬。犬を飼うことは、自分の家ではかなわない。家の人が許してくれない。だから④心の中で架空かくうの犬を飼う。架空の犬は、ごはんをあげられなくても散歩に連れていけなくても、いつでも山吹に寄より

添^そっていく。犬がいればさびしくない。犬。無意識^なに撫^なでるような仕草をした。教室の戸が開く音がした。

「すみません、遅^{おそ}くなりました」

山吹は驚^{おどろ}いて振り返^{かえ}る。祖母の声だった。

背^せ伸びをするようにして教室を見まわしていた祖母は、山吹を見つけると歯を見せて笑った。黒色のワンピースにへんなかたちの帽子^{ぼうし}。

サカシタ先生が、祖母を手招きする。祖母が近づいて来て、サカシタ先生に頭を下げた。先生が授業内容の説明をしている。顔を描く、と聞いて祖母は「あらー、じゃあもつとしっかり化粧^{けしょう}してくればよかったねえ」とこぼした。

「ま、よか。さあ描いてちょうだい」

さあ、さあ、と言いながら両腕^{りょううで}を広げる。⑤祖母を見て、隣^{となり}の席の女子がくすりと笑ったが、気にはならなかった。

「……いつインドから帰ってきたの？」

インド？ と⑥を傾^{かじ}げた祖母はすぐに、ああ、と笑う。祖母が行ってきたのは大阪で、布の仕入のためだと言う。インドではなくインドネシアから良い布がたくさん入ったと商売の仲間から連絡^{れんらく}があつて、それを見に行ってきたらしかった。

「インドって……また、おじいちゃんが言うたとやる。あんないい加減な人の言うこと信じたらいかんよ」

祖母はポケットから、くしゃくしゃになった紙を取り出す。⑦山吹が自分の部屋のごみ箱に捨てた、授業参観のプリントだった。祖母が帰って来たのは昨日の深夜、みんな眠^{ねむ}っていた時間だという。朝起きると山吹と紅はいつも自分たちで食パンをトースターに入れて焼き、冷蔵庫から取り出した牛乳を飲む。祖母が夜中のうちに帰ってきているなどと、思いもよらなかった。

祖母が言うには深夜に帰宅した際、トイレに起きてきた紅と鉢^{はち}合わせ^あせしたのだという。

紅は目を擦^{こす}りながら、開口一番「明日、暇^{ひま}なら学校に行つて」と祖母に言ったのだそう。山吹の授業参観日だから、山吹が唯一得意な図工の時間だから、と。

「そう」

俯^{うつむ}きながら、祖母の鼻と、両脇^{りょうわき}に刻まれた曲線のような皺を描くことに集中しようとする。トーストを齧^{かじ}っていた紅の顔を思い出す。今朝、紅は山吹あんたジャム塗り^{ぬり}過ぎ^{すぎ}、ばかやないと、という理不^{りふ}尽^{じん}な罵倒^{ばとう}の言葉以外はなにも口にできなかった。⑧描いた線がまた滲^{しみ}みそう、山吹は必死にまばたきを繰り返^{かえ}す。

(寺地はるな『架空の犬と嘘をつく猫』中央公論新社 による)

1 — 線①「生徒たちの顔を見まわすようにする」とありますが、なぜこのようにしたのですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 生徒たちの顔と先生の顔はまったく違うことを見せようとしたから。

イ 生徒たちの顔は本当にそれぞれ違っているのか確かめようとしたから。

ウ 自分の発言が正しいか自信がなく、生徒たちの反応を知ろうとしたから。

エ 誰ひとり同じ顔の人はいないことを生徒たちに意識させようとしたから。

オ 生徒たちの目を見ながら今日はふざけないように念を押していたから。

2 — 線②「ちらりと鍊司のほうを見る」とありますが、このとき山吹は「鍊司のほうを見」てどのようなことを感じとりましたか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 教室に充滿した化粧品のおいがきついたので、鍊司は苛立つているということ

イ お母さんの代わりにおばあちゃんが来たことが鍊司には不満だということ

ウ おばあちゃんが来たことを鍊司は恥ずかしく感じているということ

エ 口下手で伝えられないが、おばあちゃんが来て鍊司はうれしく思っていること

オ 親でなくても誰かが参観に来てくれる鍊司の家はよい家だということ

3 — 線③「どうしても顔を上げることができない」とありますが、これはなぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 不意に流れた涙にとまどっているから。

イ 保護者の来なかった事実を認めたくないから。

ウ 保護者が来て喜んでくれる友達を見たくないから。

エ サカシタ先生に泣き顔を笑われたくないから。

オ サカシタ先生の顔を描く気になれないから。

4 ———線④「心の中で架空の犬を飼う」とありますが、これはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア どうか家族で犬を飼えるという明るい未来を信じて、つらい現状を我慢する。がまん

イ 自分にだけなつくかわいいいペットが、世界のどこかにいてくれるという希望を持つ。

ウ どんなことをされても飼い主に忠実な犬の生き方をまねて、家族を支えようとする。

エ 大人のいない世界で思いきり好きなことをやっている自分のことを考える。

オ いつも自分のそばにいてさびしい心をなぐさめてくれる温かな存在を想像する。

5 ———線⑤「祖母を見て、隣の席の女子がくすりと笑ったが、気にはならなかった」とありますが、これはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 祖母が遅れて現れたことを笑われたが、好意を寄せている女子なので無視して気を引こうと思った。

イ やけに乗り気な姿勢の祖母を笑われたが、参観に来てくれたというだけでうれしく思った。

ウ 風変わりな服装をしている祖母を笑われたが、いつもの服装より落ち着いていると思った。

エ 早く顔を描いてもらおうとする祖母を笑われたが、じょうずに描けるように集中しようと思った。

オ 自分とは違って陽気な祖母を笑われたが、参観に来てくれた祖母に心配をかけまいと思った。

6 ⑥にあてはまることばとして、体の一部を表す漢字一字を書きなさい。

5 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

あたり前の「便利」といえば、①コンビニも僕たちの生活になくはならない便利なものですね。ただ単に商品が売られているだけではなく、その名前の通り、僕たちの生活に「便利」を提供する拠点として進化し続けています。

そこに入るとほっとする自分がいることに気づきます。

それは、なんとなく安全で、なんとなくちゃんとしたものが並んでいて、そして気軽に必要なものが買えるという点で、知らず知らずのうちにコンビニに頼った生活を送っているからなのでしょう。

②コンビニにはたくさんの人を呼び込むための工夫がいくつもありますよね。

たとえば、雑誌のコナーを窓側に配置することで、そこに人を立たせて賑わった感じに見せています。

そして、いざお店に入ってきたお客さんに対しても、その人の動線をいかに長くするかが実によく考えられている。

コンビニでもっとも売れる商品はやはり飲み物です。いちばん奥に飲み物を配置し、次によく売れるおにぎりやサンドイッチ類をその対角線上に設置するなどして、お客さんの動線を長くするための工夫がいろいろとされているわけです。

③A、あの、コンビニの匂い。

コンビニの匂いと言えば、和風だしの香りを放つおでんや最近ではコーヒーのいい香りがしますが、④匂いは記憶を喚起する力がとても強く、幼い頃からの習慣に大きく左右されるそうです。

匂いというのは不思議なもので、形として残すことができないものではあるのですが、その記憶は脳がしっかりと覚えてくれている。この匂いが記憶を呼び覚ます現象を、フランスの文豪マルセル・ブルーストの小説の描写にちなんで、「ブルースト効果」と言います。

脳みそのなかで、匂いの情報を処理する場所と、感情を司る場所が同じなので、匂いによって感情が呼び覚まされることが起きる、と最近の研究でわかってきているようです。

③B、マクドナルドの前を通り過ぎるとき、ポテトを揚げている匂いをかぐと無性に食べたくなってしまいうのも、小さい頃にワクワクしながら食べた記憶が呼び起こされているからかもしれないですね。

話を戻しましょう。さて、もしも、コンビニがなくなったら僕たちの生活はどうなるか？

第一に買い物に不便になるということが考えられますが、コンビニに依存している人は、ライフスタイルに大きな影響を受けるのではないのでしょうか。

でも、冷静に考えると、僕が子どもの頃というのはコンビニなんてまだ軒もありませんでしたし、ようやく町にできたセブン・イレブンに

しても、昔は名前の通り、午前7時から夜の11時までしか開いていませんでした。しかし、それがいつの間にか24時間営業があたり前になり、コンビニがなければ僕たちは日々の生活のなかで不安を覚えるようにまでなってしまったのです。

なぜ、コンビニが僕たちの生活になくってはならないものになったのか。

それは、コンビニ各社が時代の⑤ニーズとともに、お客さまにとって便利な店になろうという涙ぐましい努力を続けてきた結果に他なりません。

よく売れているおにぎりやお弁当にしても、より美味しくさせるために、定期的に味の向上に努めたり、売れている商品の統計をとって陳列を変えたり……。

③C、僕にとってもコンビニは便利な場所ではあることに疑いの余地はありません。ですが、これだけ多様化が進んでいても、本当の意味での個性は生まれにくい場になっていると感じることがあります。

京都の「古川町商店街」というところに1軒、「なんでも屋さん」のようなお店があります。小さな個人商店で、それこそコンビニの半分ぐらいの広さしかないのですが、このお店には見事にいい商品が並んでいます。ある意味⑥セレクトショップのような感じで、その店主のセンスが光る品揃えになっていて、欲しいと思えるものがちゃんと置いてあるのです。

③D、醤油ひとつ取っても「この醤油が好きだから置いてある」という店主の自信や主張がにじみ出ている、僕の好みにすぐ合うなあと感したことをよく覚えています。

コンビニも、このようにもって店長の個性が出せる仕組みにしたらいと思いませんか？ 少なくとも、⑤全部が全部同じになっている「あたり前」を一度リセットし、どこでも、すべてが同じであることのみまらなさについて、考えてみるのはどうでしょうか。

これはコンビニに限られたことではなく、商店街でも同じこと。
もともと視野を広げれば、世界中の繁華街にある有名なファッション・ストリートも同じです。どの国に行っても同じブランドが軒を連ね、空港の免税店も代わり映えがしません。日本で買うのもニューヨークで買うのもパリで買うのも、さほど違いがないのです。

NHKの合唱コンクールで、小学生の部の課題曲として、僕が作詞した⑦嵐の『ふるさと』が選ばれたことから、この合唱コンクールを広報する番組に携わったことがあります。

そこで「歌の上手い、きれいな声の人だけを集めても⑧良い合唱にはならない」ということを聞きました。高い声や低い声があったり、きれいな声があればガラガラ声もあったり、いろんな声が集まってひとつのハーモニーが生まれ、人の心を揺さぶる合唱になるということです。僕は

それを聞いて、「なるほど」と感銘を受けました。

それはつまり、単にムダを省いたり、利益や効率ばかりを追求してしまうと、個性という光り輝く宝物を見つけることが難しくなってしまうということ。

話を戻しますが、なぜ⑦コンビニに個性が生まれにくいのか。

それは、簡単に言えば、限られたスペースのなかで効率（つまり、売上）だけを重視しているからです。売れているものだけを残す、不要なものを取り除く。それによって個性や店主色は消されていきます。

でも、せっかくこれだけの店舗数があるのですから、店長の個性が光る店や、「こんなの誰が買うんだろう？」という商品が置いてあってもいいと僕は思っています。それは料理にも似ていて、一見必要のないような調味料が混ざっているからこそ、そこに味の深みや奥行きが出てくることがあるといえます。

唐突ですが、コンビニの棚に並ぶ商品たちを、自分の友だちに置き換えてみましようか。

たとえば、好きな人ばかりを自分の周りに集めたとしたらどうなるか？ きつと、自然と似たような性格の人や、モノの考え方をする人ばかり集まってしまうと思います。大人になってから当手を振り返ってみると、そういう人たちは意外と印象に残らないものです。

それよりも、喧嘩ばかりしていた友だちや、ちよつと変わっているな、という印象だった友だちのことを、忘れずに覚えていたりします。

そう考えると、コンビニにしても、ただ売れる商品だからという理由でどの店に行っても同じものしか置いていないのは、ちよつとつまらないと僕は思います。

今では高級食材として扱われている（注8）トロが、昔は捨てられていたというのは有名な話ですが、他の人が一見不要だと思つているところに価値を求めて、あえて自分のなかに取り込んでみる。それが、普通では味わうことのできない人生の豊かさが生まれるきつかけになるはずだ。

（小山薫堂『じぶんリセット——つまらない大人にならないために』河出書房新社（によう））

注1 動線 Ⅱ 店内において人を導く経路

注2 喚起する Ⅱ 呼び起こす

注3 文豪 Ⅱ 立派な文学作品をいくつも残した人

注4 ライフスタイル Ⅱ 生活様式

注5 ニーズ Ⅱ 必要

注6 セレクトショップ Ⅱ 独自の品ぞろえをしている店

注7 嵐 Ⅱ 男性アイドルグループ

注8 トロ Ⅱ まぐろの中であぶらののつている部位

1 —線①「コンビニも僕たちの生活になくってはならない」とありますが、これはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 僕たちはコンビニがないと安全な生活を送れないということ

イ コンビニにはいつも人がいるので僕たちは安心できるということ

ウ 僕たちはコンビニに行けばワクワクした気持ちになれるということ

エ コンビニは僕たちの生活を守るために進化しているということ

オ 僕たちの生活はコンビニに依存しているものだということ

2 —線②「コンビニにはたくさんの人を呼び込むための工夫がいくつもあります」とありますが、「コンビニ」がしている「工夫」とはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア いちばん奥に飲み物とおにぎりやサンドイッチを配置し、セツトにして販売していること

イ 店の外にも、おでんの和風だしやポテトを揚げる匂いなどが広がるようにしていること

ウ 店内を移動するお客さんが、より多くの商品を目にするように考えて配置していること

エ 雑誌コーナーを窓際に配置することで、雑誌を購入したい気持ちをかき立てていること

オ 「便利」を提供する拠点として、すべての人が入りやすいように店内を賑わわせていること

3 —線③④の③Aと③Dのうち三つには同じ言葉があてはまり、一つだけ異なることばがあてはまります。三つに共通してあてはまることばを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア たとえば イ さらに ウ ところが エ もしも オ つまり

4 —線④「匂いは記憶を喚起する力がとても強く」とありますが、これはなぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア コンビニのなかに入ると、和風だしの香りを放つおでんやコーヒーのいい匂いがするため、その記憶が脳から離れなくなるから

イ 匂いが記憶を呼び覚ます「ブルースト効果」によって、食べ物の匂いをかぐと無性に食欲がわくような現象が引き起こされるから

ウ 匂いは形として残すことはできないが、脳がその記憶をしっかりと覚えてくれているため、匂いをかぐと記憶力が増していくから

エ 脳のなかで、匂いの情報を処理する場所と、感情を司る場所が同じなので、匂いによって感情が呼び覚まされることがあるから

オ 幼い頃に匂いの情報を処理する経路を積んでおくと、感情が引き起こされると同時に、感情によって匂いが呼び覚まされるから

7 —線⑦「コンビニに個性が生まれにくい」とありますが、個性のあるお店とはどのような店ですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア コンビニの半分くらいしかない小さなお店で、生活必需品だけが置いてある店
- イ たとえ醤油ひとつであっても、店主の個性が感じられる品揃えになっている店
- ウ 一見必要のないような調味料を混ぜ合わせて、店主独自の味を作っている店
- エ 確実に利益を出せると店主が判断した商品だけが集められている店
- オ お客さまの意見を取り入れて、誰もが欲しいと思える品物を見つけられる店

8 この文章の内容と合っているものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 筆者が子どもの頃はコンビニがなく、ようやく町にできてからも営業時間が限られていたため、生活に不安を感じながら生活していた。
- イ コンビニ各社が時代のニーズとともに、お客さまにとって便利な店になろうと心がけてきた結果、コンビニは必要不可欠な存在となった。
- ウ 世界中の繁華街にある有名なファッション・ストリートは、個性的な店で賑わっており、どの国に行っても変わりなく楽しむことができる。
- エ 個人商店の店長は効率を重視した経営をやめて、「こんなの誰が買ったんだろう」という商品ばかりを置き、店の個性を光らせるべきである。
- オ 自分の周りに好きな人や似たような人を集めて過こしても、大人になってから当時を振り返ってみると、何も覚えていないものである。

(問題はこれで終わりです)